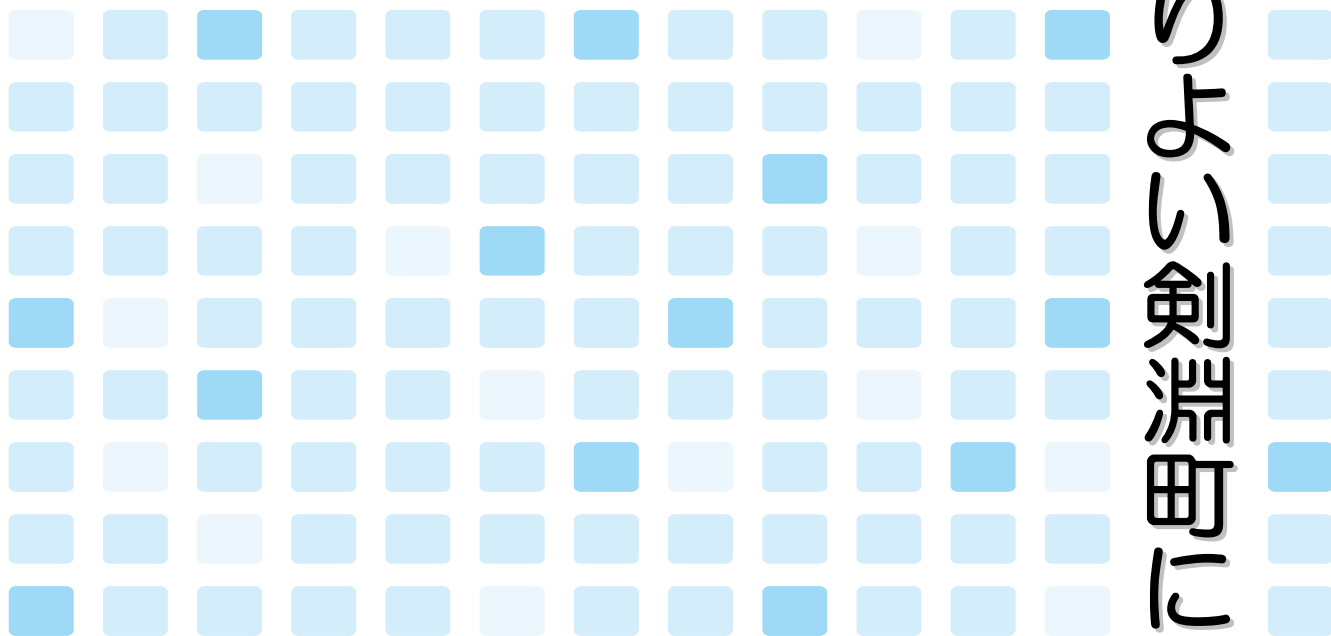


# よりよい剣淵町にするために・・・



剣淵町まちづくり町民会議からの提言

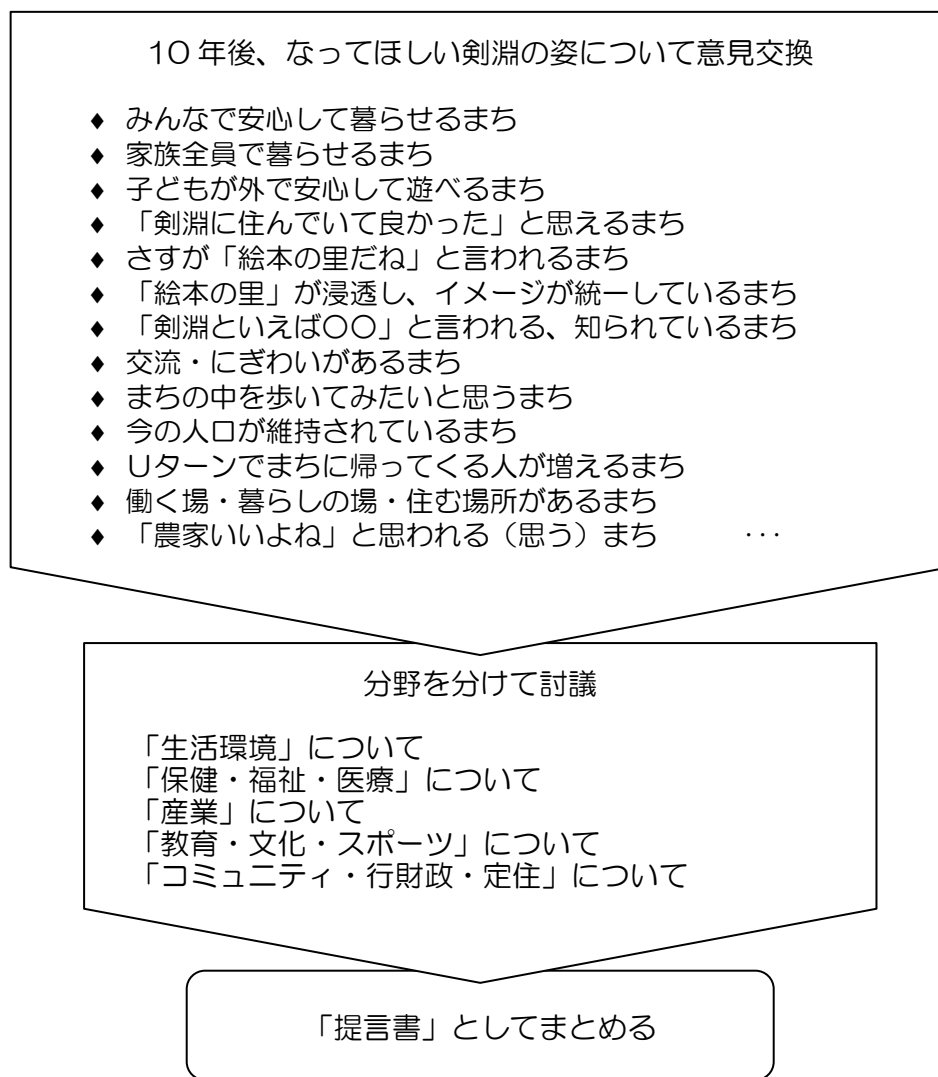
# もくじ

I	はじめに .....	1
II	提言の内容 .....	2
1.	小さなまちだからこそ、力を入れたい .....	2
(1)	広い視点から定住を促していく .....	2
(2)	行き来しやすい交通網を守る .....	3
(3)	安心できる救急・医療の環境を守る .....	4
(4)	お年寄りになっても、安心感や生きがいを持てるようにする .....	5
2.	さすが絵本の里だねと言われるまちにしたい .....	6
(1)	町内外からもっと親しまれる「絵本の館」にする .....	6
(2)	ごみが散らかっていない&ごみが少ないまちにする .....	7
(3)	ビジュアル的に、まちのイメージ戦略を考えてみる .....	8
(4)	子どもが遊びやすい&寄りやすい場を増やす .....	9
(5)	子育て支援を、支援する .....	10
3.	剣淵の産業を守り、みんなの生活を守りたい .....	11
(1)	農業の担い手を増やす .....	11
(2)	地域で働きたい人を応援する .....	12
(3)	地産地消できる機会を増やす .....	13
(4)	町内で買い物をする楽しさを広げる .....	14
4.	みんなで地域づくりに参加し、盛り上げたい .....	15
(1)	地域ぐるみで教育やスポーツ、健康づくりを盛り上げる .....	15
(2)	住民の活動をもっと応援する .....	16
(3)	「協働」とあえて言わなくても、普通に見られるまちにする .....	17
III	剣淵町まちづくり町民会議メンバー .....	18
IV	剣淵町まちづくり町民会議の開催経過 .....	18

## I はじめに

この「剣淵町まちづくり町民会議」は、新しい総合計画（第5期剣淵町総合計画）をつくるにあたって、住民と職員とが同じ住民の視点で意見や提言のできる討議の場として設置をしました。

はじめに、総合計画が10年間の計画であることから、「10年後、こうあってほしい剣淵の姿」を考え、そこで出された意見をもとに分野を分けて、討議を進めました。



メンバーとして参加している職員から町の情報を得て、共通の認識のもと（時には情報不足による誤解を解消しながら）、討議を進めていきました。

実際に取り組むことを考えると、すぐに実現できないものや、そのままの実施は難しいものなどもあるかもしれませんが、10年間という長い視点で、参考にして、実際に取り組んでもらえることを期待しています。

## II 提言の内容

### 1. 小さなまちだからこそ、力を入れたい

#### (1) 広い視点から定住を促していく

**子育て環境としても良く、家賃も比較的安い剣淵町に住宅が増えれば、町外からも入居者が見込めます。また、高齢社会では、年をとっても安心して住める住宅が必要です。民間と協力してでも、住宅を増やしていくべきです。**

**空き家や宅地を探していても、伝手(つて)がないと限られた情報しか手に入れることができません。また、貸手も貸すことに慎重です。住宅の情報を積極的に広報するとともに、情報の提供だけでなく、世話役的な役回りを行う人(組織)が必要です。**

**剣淵町は、日常的な風景や豊かな自然など、暮らしそのものが魅力です。じっくり滞在してもらえば、剣淵町の良さが伝わると思います。そのためには、長期滞在向けに低料  
金で利用できる場を設けることが必要です。**

- 定住対策として、公営住宅の整備に力を入れる。(家族で住める住宅を増やす)
- 公営住宅のほか、借り上げ制度をつくるなど、民間が住宅を整備するよう促進する。
- お年寄りの支援ニーズに合わせて、若者向けとお年寄りの混住型の住宅や、ケア環境が整った住宅なども検討する。
- 分譲地(さわらび団地)をもっとPRする。
- 広報紙に空き家・空き地情報を掲載する。
- 現在、町で行っている幹旋よりもさらにきめ細かな対応ができる体制をつくる。
- 移住を希望する人が一定期間「お試し居住」できる機会を設ける。(既存の施設で転用できるものを使う、桜岡公園(オートキャンプ場)にコテージをつくる)
- 絵画(絵本)の作成や陶芸、農業などを楽しみながら滞在できる場をつくる。

#### ここでの話題

- ・ 剣淵町に住みたいと思いつつ他町に住んでいる人がいる。(実際相談も受けたことがある。)
- ・ 特に、家族向けの住宅が少ない。子育てにはとてもいい町だと思うが住む家がない。
- ・ ひらなみ荘や西原学園の職員も、半数以上は町外に居住している。
- ・ 公営住宅に空きがない。また、町外からは、公営住宅に入りにくい。(保証人が必要など)
- ・ 公営住宅は建設基準が高くコストが高い。民間ならばコストも抑えられ、固定資産税も徴収できる。
- ・ ひらなみ荘の人気は高く、ケアが受けられる住宅環境を望むお年寄りも多いことが伺える。
- ・ 働く場が土別市や和寒町でも、剣淵町に住んでもらえばいい。
- ・ さわらび団地(2010年2月時点で残り2区画)は、町外者にはあまり知られていない。
- ・ 町外の人が剣淵町で住む家を探す場合、人脈がないと広く情報が入ってこない。
- ・ 町のホームページでも、空き家情報(売却・賃貸)を掲載しており問い合わせもあるが、家屋の状況や金額面で折り合いがつかないこともあります。貸す側も知らない人に貸すことに対して慎重である。
- ・ 他の自治体では、空き家を公社等で買い上げている例もある。
- ・ 剣淵町は、地域での生活そのものが魅力。一過性ではない日常的な景色や星がいい。ホテルではない、多用途にちょっと泊まれる宿泊の場がほしい。
- ・ 町内には滞在に利用できる空き家の確保がむずかしい。
- ・ 高速道路が無料になれば、剣淵町でも札幌市からの誘客が十分に考えられる。

## (2) 行き来しやすい交通網を守る

**高齢化が進み、公共の交通を頼りにする人が増えていく中で、バス路線が縮小傾向にあることが心配です。**

**コストの問題はありますが、小回りの利くサイズにしていく、バス以外の乗り物での対応も検討するなど、車を運転しない人たちの交通を守っていくことが必要です。**

**また、冬期にも安全に運転できるよう、道路を雪や吹雪から守る取り組みをこれからも続けていくことが必要です。**



- 更新時には、利用者とコストを考えて、小さなバスにする。
- 1日4回の運行を減らし、ルートを拡大する。
- 乗合タクシーを運行する。
- バスの路線を拡大する。(農村部の細部にも路線を設定する)
- 道路に雪を出さないなど、除雪のルールを住民に守ってもらうよう、呼びかける。
- 交通の多い箇所には、防雪柵を増やしてもらうよう、道(土木現業所)に要請する。
- バス路線を維持するために、普段バスに乗らない人も乗る機会を増やす。
- バスの車内放送で、町のPRや周辺施設の案内をする。
- バス停の環境も良くする。(バス停のデザイン、絵など)

### ここでの話題

- ・今の町有バスは中型だが、もっと小さいバスでいいのでは。通学以外の利用者は殆どなく、使い勝手が悪い。
- ・小回りの利くバスがあれば、お年寄りはとても便利。
- ・士別市に福祉乗合タクシー(士別ハイヤー)があり、剣淵町から士別市の病院まで1,240円で乗れる。  
←(町より)剣淵町では1,240円の50%補助を行っている。
- ・農家の中にも、交通の便が悪くて公営住宅に入る人もいる。
- ・除雪の技術は素晴らしいが、敷地内の雪を道路に捨てる人がいる。
- ・主要な道路でも、吹雪の時には、視界が見えなくなる箇所がある。

### (3) 安心できる救急・医療の環境を守る

**士別市内や旭川市内の病院を利用する際、お年寄り(介護サービス以外)がバスを乗り継いで通院したり、複数の子どもを抱えながら通院するのは、大変なことです。**

**町立診療所の充実以外にも、近隣の自治体と連携し、広域的な視点で医療体制を考え、整えていくことが望まれています。**

**特に剣淵町は、救急車がないので救急時の不安の声を聞くことがあります。ドクターヘリでのサポート体制を周知するなど、住民の不安を取り除くための努力が必要です。**



- 周辺の自治体が協力して広域的な医療体制を整える。(特に産科と小児科)
- ドクターヘリの存在を住民にPRし、救急体制について理解してもらう。
- AED(自動体外式除細動器)の使い方など救命活動を学ぶ機会を増やす。

#### ここでの話題

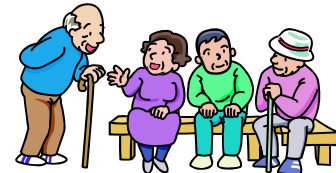
- ・町立診療所の利用者は結構多いが、お年寄りの中には、士別市内の病院を利用することも多い。旭川市までバスで通院する人もいる。介護サービスの利用者はいいが、一般のお年寄りは大変。
- ・士別市の市立病院に常勤の小児科医がないので、名寄市や旭川市まで行くことがあるが、子どもが複数の場合や夜間だと行くのが大変。
- ・剣淵町から名寄市まで30分程度だが、決して(時間的に)遠いとはいえない。(病院までの時間がもっとかかる都市もある)
- ・病気になって困るよりも、病気にならない事が大切。
- ・ドクターヘリが来るようになって、救急体制は良くなったようだが、ドクターヘリのことをあまり知らない住民も多い。←(町より)広報紙には掲載している。
- ・救急時には、近くにいる人が救命活動を行えることの方が現実的には重要だが、AED(自動体外式除細動器)の正しい使い方を知っている人は少ない。
- ・町でもAEDの講習はやっているが、年1回では少ない。←(町より)消防に申し出れば、AEDの使い方や心肺蘇生、観察などの講習を行っている。

(4) お年寄りになっても、安心感や生きがいを持てるようにする

ひとり暮らしのお年寄りやお年寄りだけの世帯が、剣淵町でも増えています。高齢化がさらに進むと、もっと増えていくと思われます。このようなお年寄りの見守りをどのようにしていくかは、重要な課題です。

体が動けるうちは、家から出てきてもらうことを基本に、集まる場、人と話ができる機会を増やしていく必要があります。

新たな施設や設備を建てなくても、住民の協力や既存施設をうまく活かすことで、取り組んでいく必要があります。



- 町立診療所の入院病棟を、介護保険対象外の（任意の）託老所に利用する。
- ひとり暮らしのお年寄りが外出する機会を増やす。
- 中高生など若い世代に協力をしてもらい、訪問活動や除雪活動を行う。
- お年寄りの施設と保育園などの児童施設を併設する。
- お年寄り以外にも、多くの人に参加できる「福祉合同運動会」にする。（土日に開催する、多くの人を楽しめる内容にする、町民運動会を復活するなど）
- 学童保育所で、お年寄りと子どもが交流できる機会をつくる。

### ここでの話題

- ・ディサービスは「ひらなみ荘」でしかやっていないが、需要は多い。和寒町では、自宅を改造して受け入れている例がある。
- ・町立診療所の入院病棟をディサービスに利用できないか。←（町より）制度上の正式なディサービスには基準があるが、介護保険対象外の（任意の）託老所的なものであれば可能。
- ・敬老会が自治会の運営になり、町から補助金や祝い品も出るが、負担が高まっている。元気でないお年寄りが増えている。
- ・（町より）ひとり暮らしのお年寄り宅への訪問については、保健師と消防職員が一緒に訪問し、安否確認と火災予防などの安全指導を行っている。また、除雪サービスも低料金で行っている。
- ・富良野市内の高校では、高校生が2人1組でお年寄り世帯を訪問している。剣淵高校も福祉の課程があるので、高校生による訪問活動に協力してもらえないか。
- ・お年寄りの能力を活用するためのリストについては、教育課で人材リストをつくっているが、団体が中心で個人の登録は少ない。
- ・福祉合同運動会が平日のため、老人クラブなど参加が限られる。また、お年寄りは増えているが、全体的に福祉合同運動会の参加者は減っている。
- ・60歳で老人クラブは早いのでは。「老人クラブ」の名前も良くないかも…。

## 2. さすが絵本の里だねと言われるまちにしたい

### (1) 町内外からもっと親しまれる「絵本の館」にする

**町内をはじめ町外からも、「絵本の館」を訪れる人が増えています。絵本の里づくりの拠点として、さらに存在感を高めていく必要があります。そして是非、一度来られた方にはリピーターになってもらえるよう、印象に残る場所にしていく必要があります。**

**また、運営体制の枠を越えて、町内外から、絵本の館をよくしていくためのアイデアや提案がもっと広く受けられる機会を(できれば実際に関わってもらえる機会も)増やしていく必要があります。**

**さらには、施設や企画を運営していくのに必要な予算(収入)の確保も考えていく必要があります。**



- 絵本の館までの誘導策をとる。(キャラクターなど目立つもので誘導する)
- 子どもの居場所として、平日利用を増やしたい。(下校後に立寄りやすくするなど)
- 町内の子ども、親子へのPRを高める。(離乳食の指導など、保健や子育ての分野で親子と接する時、絵本の紹介や絵本の館の催し物の案内などをする。)
- 来館者にもっと積極的に声をかける。(町外者にはまちの情報を積極的に伝える)
- 試しに1か月夜間開放し、利用状況のチェックや意見を求める。
- オリジナルグッズをつくる。(絵本の里大賞の作家による剣淵町を題材にした絵本、協力金込みのワッペン・切手など)
- また来たいと思う仕組みをつくる。(木の砂場に名前を書き入れてもらう、巨大なオブジェ(絵)になる木のパズルのピースを販売しみんなで完成させる)
- 絵本の館への備品の寄付を募る。
- 多くの人に関心を持ってもらう企画を行う。(アマチュア絵本コンテスト、我が家のおすすめの一冊コーナーをつくる、「絵本の里」への意見や提案を聞く機会など)
- 対外的なPRを積極的に行う。(本屋さんに「絵本の里」の営業活動を行うなど)

### ここでの話題

- ・絵本の館は、住民に定着してきている。町外から訪れる人も多いが、場所を聞かれて説明しにくい。
- ・絵本の館への誘導標識をつけたが、わかりにくい。道道からの曲がり角がわかりにくい。
- ・絵本の里を創ろう会では、大人の取り込みが心にかけているが、絵本に関心のない人はなかなか来ない。
- ・子ども向けのイベントの参加は、町外の子どもが多い。
- ・下校途中での立ち寄りが認められる火曜日を除き、子ども(小学生)の利用が少なく、もったいない。以前、下校バスの運行を考えたこともある。
- ・夜のニーズはあると思う。他町の図書館でも、夜間開放の例はある。ボランティアを活用している例もある。農業振興センターは、利用時間フリーの自主管理型にして成功している。
- ・たまごの部屋(木の砂場)は、子どもに人気がある。
- ・もう少し、遊びの場所を増やす。←(町より)今のスペースだと、本のスペースとの共存は難しい。
- ・現在は無料だが、トイレトペーパーや水道代などの経費が結構かかる。
- ・絵本の販売収益は、絵本の里を創ろう会の絵本購入資金にしている。
- ・メモリアルなみやげ(オリジナルグッズ)がほしい。
- ・有料化して維持管理費に充てる。←(町より)有料化は現時点では難しいが、絵本の館への備品の寄付を募ることはできる。
- ・ワッペンなど、協力金込みの商品を販売する。



## (2) ごみが散らかっていない&ごみが少ないまちにする

剣淵町は自然が豊かで景色もきれいです。ごみ収集所の付近では、カラスによってごみが散らかされている状況が見られます。個々の住民や地域によっては、カラスからゴミを守る工夫も行われているので、全町に工夫を広めていくことが必要です。

ごみの分別については定着していますが、分別して出したものがどのようにリサイクルされるのか、知られていない状況です。リサイクルに対する理解が深まれば、ごみの分別の意識も高まり、ごみの量も減るのではないのでしょうか。



- カラスを防ぐネットを普及する。(効果をPRする、購入先を周知する、購入の補助を行う)
- ごみ出しの基本的なルールやマナーを再確認し、カラスからゴミを守る工夫をしている地域を紹介する。
- 指定袋を改善する。(カラスが好まないと言われている黄色にする、やぶけにくくする、利益が出たらごみ対策に使う)
- 分別されたごみがどのように処分・リサイクルされるのか、積極的に情報提供する。

### ここでの話題

- ・ごみ集積所は、ネットをかけないとカラスがひどい。
- ・ごみ出しについて、住民で工夫している地区もある。
- ・東京都では、黄色の袋を使っている。指定袋にして販売し、利益が出たらごみ対策に使えばいい。
- ・カラスの駆除は行っているが、市街地では散弾銃は使えない。
- ・今年、カラスが世代交代した。5年は生きる。(増える?)
- ・生ごみ用の袋が破けやすい。
- ・ごみは埋め立てているが、処分場には限りがある。ごみを少しでも減らしていく努力を地道に続けていくことが必要。
- ・分別の意識を高める方法として、リサイクルの仕組みや状況を知ってもらうことは有効である。

### (3) ビジュアル的に、まちのイメージ戦略を考えてみる

まちには、絵本の里のロゴマークのほか、道路標識などに使われているカラスのキャラクター、道の駅けんぶちのマークなどがあります。

「統一すべき」「カラスはどうか」「カラスもいい」など、意見はさまざまでしたが、これらのマークやキャラクターが剣淵町のイメージに結びついているのは事実です。

まちのイメージづくりについて、みんなで考えてみても良いのではないのでしょうか。

マークやキャラクターだけでなく、のんびりとした農村風景が絵本の里らしさをかもし出しています。四季折々に、住民もあまり知らない、見どころの風景がいろいろあるようです。それらの風景をもっとイメージづくりに活かしていくことも必要です。



- 剣淵町のイメージづくりについて考える機会を持つ。そのなかで、キャラクターを統一することも検討する。
- まちのキャラクターを募集する。(全国から募集することによって、剣淵町を全国にPRする)
- まちの旗やバス、公用車などに「絵本の里」のロゴマークを入れる。
- 広報紙やホームページで、ベストショットとして、まちの美しい景観を紹介する。  
(住民で紹介し合うブログをつくる)
- 国道から桜岡公園(レークサイド桜岡など)、さらには絵本の館まで道を桜並木にする。
- 高速道路から見える位置に、「絵本の里・剣淵町」をPRする看板を設置する。

#### ここでの話題

- ・「絵本の里」と「カラス」のマークが混在している。
- ・「カラス」については肯定と否定の意見、双方がある。
- ・商店街に関しては、色(緑と茶)を統一して補助を行っており、除々に景観が統一されてきている。
- ・桜岡湖の湖畔の桜はとともきれい。今年初めて知った。
- ・住民と職員が協力してブログで情報発信してはどうか。

#### (4) 子どもが遊びやすい&寄りやすい場を増やす

個々の家が離れていたり(特に農村部)、スクールバスで通学している子どもが多いことなどもあって、子ども同士が集まって遊ぶ機会や場所が少ないです。

自転車に乗れない低学年や、保護者の送迎がなければ遠くに行けない子どもは、ますます遊ぶ場が限られてしまいます。

剣淵町には、「絵本の館」があるので、もっと遊び場として利用されるように、工夫する必要があります。



- 学校の帰りに、「絵本の館」に立寄れる機会を増やす。
- (長期的には)屋根つきの遊び場をつくる。
- 公園や子育て関連施設を整備する時には、利用者の意見を聞く機会を設ける。

#### ここでの話題

- ・子どもの遊び場が不足している。
- ・市街地の子どもは児童公園があるが、農村部の子どもは市街地に車での送迎が必要なので気の毒。
- ・スポーツ少年団に入っている子は多いが、女の子は入っていない子も多い。外で遊んでいる子どもは少ない。フリースペースでの遊び方を知らないのではないか。
- ・子どもの年齢によって、「遊び場」のニーズは異なる。
- ・少子化で1学年が20~30名となり、近所に友だちがなかなかいない。公園があっても遊ぶ友だちが少ない。
- ・自転車が認められるのは高学年からなので、特に農村部の低学年は、街中に遊び場があっても行けない。親も共働きが多く、なかなか送迎できない。
- ・学校は、授業が終わると一度自宅に帰ることを義務づけていて、下校途中の寄り道を禁止している。特に、バス通学の子はかわいそう。
- ・学童保育所でも、少数の同じ子としか遊べないので、低学年はかわいそう。

## (5) 子育て支援を、支援する

子育ての経験が少ない親にとって、子育て支援センターは頼もしい存在です。場所やスタッフの確保など、子育て支援センターの機能をもっと高めていくことが必要です。

子育て支援を求める声が高まる一方、専門スタッフには限りがあります。また、一時的に、あるいは時期的に保育を頼みたい人もいますが、現行の保育サービスの中ではまかないきれない場合もあります。子育て支援の体制を充実するために、活動をサポートしてもらえないか、住民や団体に呼びかけてみることも必要です。

そのほか、男性の保育士さん、絵本の里らしいプレゼントなどについても意見がありました。



- 子育て支援センターの機能が、より一層発揮できるようにする。(場所の拡充、スタッフの確保など)
- 子育ての経験が少ない親へのサポートを充実する。(軽い病状への対応、ベテランからのアドバイスを受けられる機会を増やすなど)
- 高学年の学童保育所の受け入れを行う。
- 有償ボランティアとして住民に協力を呼びかける。(子育て支援センター、学童保育所、農家の繁忙期のサポート、ベビーシッターなど)
- 男性の保育士を雇用する。
- 剣淵版「あなたが主役の絵本」をプレゼントする。(基本となるストーリーをつくり、子どもの名前や写真を入れる)

### ここでの話題

- ・小学校低学年は学童保育所があるが、高学年の居場所がない。
- ・東川町には、保育所と幼稚園、子育て支援センターが一体となった施設がある。
- ・士別市の子育て支援センターには、ボランティアのような人がいる。
- ・子育て支援センターは、常設保育所内ではなく、独立した施設が望ましい。
- ・男性の保育士は、子どもたちの遊びが広がりいい。特に男の子に慕われている。
- ・以前は剣淵町で、乳幼児の身体測定を婦人会が手伝っていた。子育てを学べる機会ともなり良かった。
- ・現在でも2か月に1回は健診を行っており、大きなまちに比べると機会には恵まれている。
- ・農家のお母さんは仕事が忙しく、子どもを3人育てるのは大変。
- ・(町より) ベビーシッターは少人数だがいる。
- ・母親の気晴らしが必要だ。
- ・誕生時に、絵本や椅子のプレゼントはあるが、剣淵町ならではのものが無い。

### 3. 剣淵の産業を守り、みんなの生活を守りたい

#### (1) 農業の担い手を増やす

**剣淵町でも、農業者の高齢化や後継者不足が見られます。今後、急速に問題になるものと思います。町外からの希望者も含め、担い手を増やしていく必要があります。**

**そのためには、新規就農者が比較的取り組みやすい作物については、剣淵町でも積極的に普及するなど、これまで守ってきた農業に加えて、幅を広げていくことも必要です。**



- 新規就農について、町独自の助成制度を設けるなど、もっと積極的に取り組む。
- 観光農園など参入しやすい農業を広める。
- 離農予定者の設備などを委譲していくような仕組みも考える。
- プロジェクトを組んで新規就農問題に取り組む。
- 若者の主体的な出会いの場づくりを支援する。(盛り上げ役として既婚者も参加する、観光や農業体験なども含めた企画にする、農業体験など長期的な受け入れを行う場合は、宿泊の場を確保する)
- 農家の跡取りが妻子を連れて戻って来たら助成する。(補助金など)

#### ここでの話題

- ・10年先の自分の農業を考えると辛い。農業の労働力は以前から問題視されているが、何も解決されていない。自分が楽しく農業に従事し儲けられる姿を見せることで、次世代のやる気を高められると思う。
- ・従来型の集落営農(集団化)と法人化のどちらがいいのか、わからない。地域によっても違う。国の方針は集落営農だが、なかなか難しい。
- ・現状では、身内や近所の農家に農地を委譲しているが、新規就農者への委譲も考えるべき。JAが中に入り面接・斡旋する例や、新規の農家に畑を委譲している例もある。
- ・新規就農の定着は難しい。就農希望者の研修制度はあるが、資金的な援助も必要。
- ・新規就農問題は、一個人で考えても難しい。
- ・他町には、新規就農者に1,000万円を融資する例もある。
- ・北海道の畑作農業は、機械にお金がかかる。畑作の新規就農は資金的に無理。他町には、新規就農者に100万円プレゼントする例もあるが、新規就農は、園芸農業なら(資金的にも)可能だと思う。
- ・後継者の問題が大きい。町外に出ていた農家の跡取りが妻子を連れて戻って来るケースもある。
- ・今も町の後継者対策制度はあるが、行政の出会いの場づくりは効果が薄い。
- ・和寒町には、農業体験の受け入れから、カップルもいる。
- ・以前、花嫁対策を兼ねた体験受け入れを検討したが、宿泊関係がネックになった。農業体験の希望者は多い。

## (2) 地域で働きたい人を応援する

**農家ではない住民の中にも、農業に関心があったり、農作業を手伝ってみたいと思っている人がいます。一方、ちょっとした作業を手伝ってほしいという農家もいます。**

**手伝いたい人と手伝ってほしい人の仲を取り持ってくれる仕組みが望まれています。**

**また、障がい者の雇用も、不況の中、厳しい状況が続いています。雇用場が広がるよう、請け負える仕事を情報提供するなど応援していくことが必要です。**



- 町内の主婦など非農家の労働力を活用する。
- デメンさんの登録制度をつくる。
- 剣淵高校にアルバイトの声をかけてみる。
- 西原地区の障がい者施設が請け負える仕事内容などを積極的に情報提供する。

### ここでの話題

- ・農家はデメンさん不足で困っている。デメンさんも高齢者事業団も忙しい状況だ。
- ・ベテランのデメンさんのほか、高齢者事業団などもあるが、とにかく農家は労働力不足。町内の主婦など非農家の労働力を活用できないか。町が派遣の窓口になれないか。
- ・町内の女性も、関心がある人は、タダでもやりたいと思っている。ただし、経験も自信もなく、足手まといにならないかと思い、なかなか一歩が踏み出せない。
- ・農家も気軽に頼みたいが、短期間や不定期に少しだけ頼みたい仕事なので頼みづらい。
- ・長沼町では、町がアルバイトを斡旋している。
- ・知り合いの農家に手伝いに行って、農家や農業に対する視野が広がり勉強になった。
- ・最近では高校生のバイト先がないらしい。委託実習に来た子が、その後バイトにやってきた。
- ・障害者自立支援法がなくなり、今後は障がい者の経済的な負担は減ることになる。
- ・西原地区の障がい者施設には、仕事のできる人はいる。仕事に関する情報を円滑化し、地域ともしっかりつながりを持ってないか。一般の人と同じように働いている人はいる。
- ・障がい者の仕事の請け負いについては、あまり知られていないので、もっとPRすべき。
- ・福祉法人任せではない、町の取り組みを期待する。

### (3) 地産地消できる機会を増やす

**剣淵町内で収穫された農産物の多くは町外に出荷されるため、直接地元で買える機会は限られています。自分たちで消費することはもちろん、剣淵のお土産、剣淵からのお届け物として、もっと利用しやすいようなしくみが必要です。**

**剣淵町は、「剣淵といえば〇〇」という、突出した農産物はありませんが、“絵本の里”のイメージを添えて送ることができれば、剣淵町の良いアピールになると思います。**



- 地元産の利用拡大を目的としたキャンペーンをする。(郵便局・宅配業者と連携して、地元の農産物などセット販売を行う、送料に補助を出すなど)
- 農家の独自企画として、直接販売する機会を増やす。
- 「絵本」のイメージを大切に売る。(絵本の里のシールを貼る、絵本の入った(特産品の)セットをつくる、デザインに絵本作家を活用する、絵本の里弁当をつくる)
- マスコミを利用してPRする。(番組のプレゼントに剣淵の特産品を提供する)
- アルパカもアピール要素にする。

### ここでの話題

- ・お中元やお歳暮で地元の特産品を贈ろうとしても、送料が高くて負担。厚岸町では、イベントの日に送料を半額にしたりしている。
- ・宅配業者に競争させて、交渉によりある程度は安くなる。(地元産の販売を)定例化し、一定の量が出れば可能。(春のアスパラ、秋のイモなど、ペリカン便が10%オフにするなど、時期によってはある。)
- ・国の農政は直販奨励の方向だが、農家としては不安が大きい。
- ・生産履歴の関係で箱にロットナンバーが記されているが、(集荷や選果の段階で)多少は混ざり、生産者の特定は完璧ではない。
- ・JAが、合併したことはデメリットになっている。
- ・和寒町はJA以外の流通も多い。ブランド力がある。
- ・絵本の里大賞の賞品は、大地の会の有機農産物1年分である。また、大地の会ではセット販売を行っているが、JAにはない。
- ・剣淵町内では何でも採れるので、次々に新しいものに移り、特産化できなかった。
- ・剣淵町の農産物の多くは本州に出荷されている。
- ・新しい絵本の館ができて5年がたったが、現状はほとんど変わっていない。「絵本の里」を通じた農業への波及を高めていきたい。

#### (4) 町内で買い物をする楽しさを広げる

**町外の大型店に車で買い物に行くことが増え、町内の商店で買い物をする住民が減っています。**

**高齢化とともに車を運転して買い物に行けなくなる人が増える中、まさに商店があることは、住みよいまちづくりの要素になります。**

**また、商店のみなさんにも、住民をはじめ、観光客のニーズも聞きながら、より親しめる店づくりや商品開発などしてもらいたいです。**



- スタンプラリーなど、合同企画を増やす。
- ビバスタンプを改善する。(台紙から、ゴム印押印方式への移行など)
- レークサイド桜岡のPRをもっと積極的に行う。(広報紙を使うなど)
- 商工会と、レークサイド桜岡が合同でクーポンチラシをつくる。
- 観光業者や農業者と連携して、観光客も対象とした取り組みを行う。(観光客が買いたくなる土産物づくり、規格外の農作物の販売など)
- 「まちの駅」をもっと活用する。

#### ここでの話題

- ・何かきっかけがないと、なかなか町内では買わない。
- ・町内でしか使えない地域振興券は、これまでなかった出会いを生む効果があった。普段利用しない店が使われた。
- ・スタンプラリーはいいと思う。商工会が主催し、町が補助した。
- ・ビバスタンプは、経費がかかり、台紙に貼るのが面倒。ハンコ方式などにできないか。
- ・まちの駅を整備したが、きっかけづくりにはならなかった。各商店の努力が必要。
- ・商店の情報が記載されたマップをつくる。
- ・休日に休みの店が多く、店が閉まっていると寂しい。シャッターに絵を描くのはどうか。
- ・道の駅の野菜販売のブース(直売所)は、道の駅の真ん中の方がいいと思う。
- ・街中の空き店舗を利用して直売をやったらどうか。
- ・農家は、農産物を毎日出すのが大変だ。
- ・レークサイド桜岡は、食事など、結構努力している。広報などでもっと町民にも利用をPRすべき。
- ・商工会と合同で、クーポンチラシをつくる。



## 4. みんなで地域づくりに参加し、盛り上げたい

### (1) 地域ぐるみで教育やスポーツ、健康づくりを盛り上げる

**少子化が進み、保護者や学校関係者以外の住民は、子ども(青少年)と関わる機会が減りました。保護者や学校関係者だけではなく、もっと多くの地域住民が子どもと関わり交流することで、一緒に楽しめる機会を増やし、子育てや青少年育成を地域ぐるみで活発に行っていくことが必要です。**

また、スポーツは地域住民の交流を深めるよいきっかけになります。子どもから大人まで楽しめる、住民参加型のスポーツイベントをもっと増やしていくべきです。

そのほか、日頃の体力づくりや健康管理へのサポートがあると、住民の意識も高まると思います。



- 学校の学習や行事に住民が参加する機会を増やす。
- 保護者、学校関係者以外の人に参加で、いじめの解決やケアを行えるようにする。
- 学校の先生に、町内への居住や地域の行事への参加を促す。
- チアリーディングは引き続き応援する。
- スケートリンクを復活させ、長靴アイスホッケーを広める。
- 若い人も巻き込んだ、町民パークゴルフ大会を開催する。
- 健康センターの運動機器の更新時には、住民の声(ニーズ)を聞く。
- 運動機器の効果的な利用について指導できる人を確保する。(理学療法士など)

### ここでの話題

- ・町外から通勤している教師が増えているが、家庭事情もあり、町内への居住は強制できない。
- ・学校の先生にまちのことを良く知ってほしいし、地域の行事にももっと参加してほしい。
- ・町外に住む教師でもまちの行事に参加している。町内に住んでいても参加しない教師もいる。居住は関係ない。
- ・スポーツ少年団の活動は、今は学校と切り離されている。
- ・絵本の館に行き場のない子が来ることもあるので、話し相手をするなどケアに努めている。
- ・(町より)チアリーディングは、日本代表チームの強化合宿の受け入れや器具購入の助成、バス貸し出しなどで支援している。
- ・20年くらい前まで、小学校でリンクをつくっていた。スキー場がなくなったので、スケートのニーズが高まるのではないか。長靴アイスホッケーも面白い。
- ・パークゴルフは、若い人が入りにくいような気がする。若い人への普及ができないか。
- ・ふれあい健康センターにはスポーツクラブ並みの運動機器があるが、利用者は固定化している。
- ・利用方法などが十分に町民に知られていないのではないか。←(町より)利用方法を案内する機会を設けている。また、尋ねてもらえれば教えることは可能。
- ・運動機器は、利用者のニーズに沿っていない部分や変化していることもある。

## (2) 住民の活動をもっと応援する

絵本の館ミーティングなど、いろいろな立場の人が集まる場では、普段話す機会がない人とも話ができ、町内のネットワークも広がります。

町内にはいろいろな団体やサークルなどがありますが、お互いが協力し合ったり、共同で催し物を行うなど、横のつながりを深めるきっかけがもっと必要です。

また、団体やサークルなどが活動する際、参加の呼びかけを広報したり、バスの貸し出しを行うなど、主体的な活動を側面的に応援していくことが求められています。



- 絵本の里ミーティングをはじめ、住民活動をもっと積極的にPRする。(他の住民の参加も促す広報をする)
- 普段から各団体や組織に属していなくても、(単発的に)活動できる機会を増やす。
- 町バスの貸し出しなど交通面での活動支援を行う。(町バスが借りられること、その利用条件などを積極的にPRする)
- 住民相互の交流や活動を促すポイント制度を導入する。(ボランティア貯金、エコ貯金、地域マネーなど)

### ここでの話題

- ・絵本の里ミーティングは、JA青年部、商工会青年部、役場職員の青年層など従来縦割りだった異業種団体の集まりで、非常に有意義。普段は会えない人と話ができ良い。
- ・JA青年部では、現在、トラック市(直売)の実施を検討している。
- ・絵本の里ミーティングは、レークサイド桜岡、キャンプ場などを会場として集まっている。通常は単なる飲み会だが、知らない人との出会いの場としてすばらしい。
- ・町内のグループ活動を活発化するためには、それを支える人が必要だ。
- ・女性は、子どもがいないと出会いの機会が少ない。若いお母さんには、子育て支援の取り組みが喜ばれている。「大人のホットタイム」は、人数は少ないがなかなかいい。
- ・コミュニティ活動は、町が音頭をとっても型にはまったものになり難しい。
- ・農業、子育て支援、高齢者福祉などいろいろな分野でボランティアが必要だが、みんな忙しく、やれる人は少ないと思う。助け合いの仕組みが必要。

(3)「協働」とあえて言わなくても、普通に見られるまちにする

「協働のまちづくり」という言葉を見かけたり、耳にすることが増えましたが、言葉の意味がわからなかったり、イメージが沸かない住民も少なくありません。協働という言葉から一歩進んだ内容を投げかければ、住民は反応したり、行動に移すはずですが、「協働」の言葉を広めることから実際に行動していくことへと、段階を一歩先に進めていくことが必要です。

町も住民の意見を聞く努力をしていますが、役場庁舎まで来ることができない住民や、敷居の高さを感じている住民もいます。役場庁舎から出て、普段聞けない意見を聞く工夫が必要です。



- 町で事業を進める時には、できる限り住民の意見を聞く機会を増やす。
- 住民と町が意見交換できる場（役場庁舎の会議室ではなくて）をつくる。（「町へのひとこと」「住民へのひとこと」をお互い叫びあうイベント、子育て・ボランティアなどテーマ別の「誰でも会議」、飲みながら話をできる機会など）
- 広報紙に「協働コーナー」をつくり、町が住民と住民の間に入り、住民の情報を住民に提供する。
- ちょっと困ったことに、ちょっと手を貸してあげられる「ちょっとボランティア」を広める。
- よろず相談窓口をつくる。（「何でも課」のようなもの）
- 役場庁舎に入って困ったときに、入口で人を呼べるインターフォンをつける。
- 役場庁舎内に軽音楽を流す。
- 電話の待ち受け音楽を工夫する。（町のPR要素を入れる、剣淵町ゆかりの歌・メロディーを流す）

## ここでの話題

- ・「協働」とは言っても、漠然としすぎている。投げかければ、住民は動くはずだ。
- ・住民には必ず、町に対する意見や協力しようという「思い」がある。そのきっかけをつくってほしい。
- ・住民への情報提供や協働に関する呼びかけ、投げかけがもっとあっていい。「こんなことをしたいが…」という町から住民への投げかけが少ない。
- ・住民と町による「協働」を具体化していきたい。町（行政）が、住民同士のかけ橋になってほしい。
- ・アンケートの回答に「役場庁舎に入りにくい」とあるが、そう思う。
- ・役場庁舎の雰囲気が暗い。小学生のあいさつはとてもいいが、役場にはそれがない。シーンとして入りにくい。声をかけられれば親しめるし、その人を知ることができる。あいさつをすれば、相手からも返ってくる。あいさつはとても大切なことである。
- ・どこに行けばいいのかわからない時がある。
- ・カウンターに行っても、対応してもらえない場合があるので課長の席をカウンター近くにする。
- ・「町長への手紙」は記名式で書きにくい。←（町より）回答する場合に必要なので、記名式にしている。
- ・まちづくり懇談会には、女性は出づらい。
- ・絵本の館など、役場ではない場所で住民の話を聞く。
- ・国の動きに対して剣淵町は遅い。もっと補助金などの勉強をして有効に活用すべきだし、国の動向も早めに察知してほしい。

### Ⅲ 剣淵町まちづくり町民会議メンバー

順不同

＜団体推薦＞			
江口 敏邦（JA北ひびき青年部剣淵支部）	生出 誠（剣淵商工会青年部）		
白内 達三（絵本の里ミーティング）	鈴木 晴彦（けんぶち絵本の里を創ろう会）		
藤原 マチ子（剣淵商工会女性部）			
＜公募＞			
平本 みどり			
＜町長指名・町民＞			
五十嵐 貴彦	尾崎 満	小柳 一明	高橋 徹
高橋 朋一（副座長）	畠山 弘美	肥田 圭史朗	吉田 眞沙子
＜町長指名・職員＞			
宇野 紗苗	金村 良則（座長）	櫻井 憲太	根本 英一

《第9回会議の様子》



### Ⅳ 剣淵町まちづくり町民会議の開催経過

平成 21 年	6月	まちづくり町民会議についてなど 全町民を対象に開催した「異業種まちづくり交流研修」に参加
	7月	自己紹介 まちづくりアンケートから、町全体について（1）
	8月	まちづくりアンケートから、町全体について（2）
	9月	「生活環境」について討議
	10月	「保健・福祉・医療」について討議
	11月	「産業」について討議
	12月	「教育・文化・スポーツ」について討議
平成 22 年	1月	「コミュニティ・行財政・定住」について討議
	2月	これまでの討議内容についてまとめの確認
	3月	「提言書案」の内容確認
	3月	町長に提言書を提出